



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. アヒルの飼育活動
2. ゴーヤのグリーンカーテン作り
3. 野菜の栽培
4. ワールドビジョンジャパンによる出張授業「熊本の震災のおはなし」
5. 世界のごはん
6. バケツで稲作

#### 1. アヒルの飼育

今年度もアヒルの飼育を行い、子ども達には小さな命との関わりから、自分の存在や、他者の存在、命の大切さについての学びを深めた。主に3・4・5歳クラスの園児と職員がアヒルの飼育に携わり、毎日の餌やりと小屋の掃除を行った。

「こわい」「くさい」と言いながらも、自分たちの掃除した池で気持ちよさそうに泳ぐ姿や、自分の用意した餌を食べているアヒルの様子を見て、小さな命を守るためには自分たちの力が必要である事、生きているという事はどういう事なのかを、アヒルとの関わりで日々学ぶ事ができた。しかしアヒルが急死してしまうというアクシデントが発生した。毎日、世話をしていた子ども達はそれぞれの年齢で「死」に直面する事になった。先週まで元気に歩いていたアヒルが目の前で冷たく硬くなってしまっている姿に、恐怖を感じた児や、純粋になぜ動かないのかを考える児、「死んでしまったから天国へ行ったんだ」と語る児もいた。お世話をしていたそれぞれのクラスでお別れをして、アヒルを見送った。この事柄は、小さな子どもたちにとって衝撃であり、忘れられない事柄になった様子であった。その後、アヒルは新たに飼う事はしていない。なぜならば、1つの大切な命の代わりになるものはないという事を子どもたちに知らせたかったからである。数ヶ月経った今、空になったアヒル小屋の前に来るとその時の事を話す児がいる。それだけアヒルが与えてくれた命の学びは大きなものであったと確信している。

#### 2. ゴーヤのグリーンカーテン

園庭側のテラスに2箇所プランターとネットを用意し、種から植えるもの、苗から植えるものを用意した。種は、4歳児クラスで発芽するまで世話を依頼し、固い種から芽がでる様子を観察した。その後、ポットに移した双葉を引き続き同クラスで世話してもらい苗の大きさになるまで育て、あらかじめ苗で買ってきたものと比べられるように植え、育ちを観察していった。

途中までは順調に育っていたが、園舎の工事でツルを伸ばす事が困難だった事、園庭側が非常に日当たりがよく、すぐに水が足りなくなってしまう事など多くの問題が起こり、子ども達もその生育を楽しみにしながら、「なぜ途中で葉が小さくなるのか?」「なぜ大きいものと小さいものがあるのか」など発見し、子どもたちなりの考察をしていた。結果的に、実ができるまで成長し、それなりに日陰も作られた。しかし、目標としていた栽培状況よりも小さく貧弱な育ちになってしまった事や、実った果実を研究する機会を持つべきであったこと、

グリーンカーテンによってどのような効果が得られるのかを子ども達と考察したり学んだりする機会が少なかった事が反省点となった。

### 3. 野菜の栽培

キュウリ・ナス・さつまいもの栽培と収穫を行った。キュウリやナスは育ちやすい作物であるため、栽培と収穫の経験をとてわかりやすく体験できた。育ち方や、葉の形の違い、同じものでも場所によって育ちが違う事など、それぞれが気づきを述べていた。

さつまいもは年長児が挑戦した。草取りや水やりをしっかりとしない事を話すと、毎日様子を見に行っては世話をする児もいた。収穫をした際には、予想より大きいものがあった事、期待したほど数がなかったこと、何かに食べられてしまったことなど、自分たちの想像していたものと違う現実を見る事ができた様子であった。

何気なくスーパーで見ている作物が、苦勞して育てないとあの姿にならない事は、特に年長児の気づきにつながった様子であった。

### 4. 熊本の震災の話

毎年国際協力 NGO ワールドビジョンジャパンの協力のもと、「国際理解」「人権問題」などについて子どもたちに世界の話をしていただいている。今回は、世界の話ではなく、日本で起きた震災の話をしていただいた。4月に起きた熊本の震災の際、当園の職員もボランティアに参加したため、その事は子ども達にとってより身近な話につながった様子であった。日頃から防災訓練を意識的に行っているが、自分たちの住んでいる日本で、自分たちと同じくらいの子が家をなくし、食べ物に困っていたという事実は衝撃的であった様子。とても真剣に聞くとともに「本当に地震になったら」「火事も起きるかもしれない」「食べ物がなくなったら」「トイレが使えない」と当たり前前にできている生活を振り返り、当たり前前がそうではなくなるという事を年長児はとくに考える事ができた様子であった。

### 5. 世界のご飯

調理師の提案により、月に一度世界の国の郷土料理を食べるとともに、その国の風土を知る企画が立てられた。

1回目	ブラジル	2回目	メキシコ	3回目	ポーランド
4回目	韓国・中国	5回目	ロシア	6回目	タイ
7回目	アメリカ				

メキシコの話の際には、園児の保護者から、ぜひ話をしたいという申し出があり、メキシコ出身の父と、日本出身の母が、活動に参加して下さった。

言葉の話、食材の話、遊びの話など、子ども達にわかりやすく、メキシコを紹介して下さり、子ども達は興味を持ってその話を聞いていた。

その他の国の話の際には、写真や食材、世界地図などを使用し、子ども達が興味を持って食事ができるよう工夫をした。見慣れない形や色、慣れない味の料理に戸惑ったり喜んだりしながら、子ども達の興味は次第に広がっていく様子であった。

## 6 バケツで稲作

2・4・5歳児のクラスで栽培を計画し、収穫までの工程を体験した。これを行うにあたっては、子ども達に知らせるために、職員が様々なツールで稲作について学ぶところから始まった。

土の配合、水の調節、収穫までの世話の仕方、一つ一つを学び、子ども達に伝え、実践し、どうにか実るまで育てる事ができた。しかし、いざ収穫し、脱穀となると、その難しさに驚いた。全くうまくできず、日頃普通に食べている米が貴重なものに見えた。子ども達も同様で、こんなに大変な工程で白米ができている事を知る事ができた。近隣の田んぼのお世話をしている方ともコミュニケーションをとる事ができ、地域を知る事もできた。

・  
(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）